



2021年2月5日

各位

会社名 日本精鉱株式会社
代表者名 代表取締役社長 渡邊 理史
(コード番号 5729 東証第2部)
問合せ先 常務取締役企画管理部長 若林 武則
(TEL 03-3235-0021)

業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2020年5月15日に公表しました通期業績予想及び期末配当予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

(1)2021年3月期通期連結業績予想数値の修正(2020年4月1日～2021年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 9,300	百万円 640	百万円 650	百万円 440	円 銭 180.29
今回修正予想(B)	11,300	970	960	660	270.44
増減額(B-A)	2,000	330	310	220	—
増減率(%)	21.5	51.6	47.7	50.0	—
(ご参考)前期実績 (2020年3月期)	10,913	448	433	286	117.25

(2)2021年3月期通期個別業績予想数値の修正(2020年4月1日～2021年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 4,500	百万円 150	百万円 340	百万円 290	円 銭 118.82
今回修正予想(B)	5,000	70	260	200	81.95
増減額(B-A)	500	▲80	▲80	▲90	—
増減率(%)	11.1	▲53.3	▲23.5	▲31.0	—
(ご参考)前期実績 (2020年3月期)	5,378	132	316	272	111.74

(3)修正の理由

世界経済の先行きにつきましては、新型コロナウイルス感染症の再拡大が懸念されるなど、不透明な状況が続いております。このような状況のもと、2021年3月期第3四半期累計期間の業績につきましては、感染症対策として導入された、在宅勤務を中心としたテレワークや教育などのオンライン化がノートパソコンやタブレットなどの通信機器端末の需要を喚起すると共に、デジタルトランスフォーメーションの推進がデータセンターや基地局向けを含む5G関連需要を増加させたことから、電子部品向け金属粉末の販売が拡大し、期初の想定を上回りました。また、第3四半期に入り、自動車部品など向けの粉末冶金用金属粉末の受注が回復傾向となりました。

一方、アンチモン事業の主製品である三酸化アンチモンにつきましては、多岐に亘る産業分野に販売を行っており、各産業の生産調整などの影響を大きく受け、販売が落ち込みました。第3四半期に入り、販売は緩やかに回復しつつあるものの、繊維製品や建設関連資材などの需要低迷や原料地金価格の下落などの影響を受け、第2四半期までの落ち込みを補うまでには至っておりません。

以上を踏まえ、業績予想を見直した結果、前回発表予想を上記のとおり修正いたします。

2. 期末配当予想の修正の内容について

(1)2021年3月期期末配当予想の修正の内容

	1株当たり年間配当金		
	第2四半期末	期末	年間合計
前回予想 (2020年5月15日公表)	25円00銭	25円00銭	50円00銭
今回修正予想		40円00銭	65円00銭
当期実績	25円00銭		
前期実績 (2020年3月期)	37円50銭	37円50銭	75円00銭

(2)修正の理由

当社は、株主の皆様への利益還元を経営上の重要政策の一つと位置づけておりますので、期末配当予想につきましては、業績予想の修正を踏まえ、当社が目安とする連結配当性向、当社を取り巻く経営環境、業績、事業投資計画、財務状況などを総合的に勘案し、1株当たり40.00円とさせていただきます。

(注) 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績、配当は今後の様々な要因によりこれらの予想と異なる可能性があります。

以上